

よいことの
ために
手を取りあおう

- ◆国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ(イタリア・ラゲザRC)
- ◆第2660地区ガバナー 吉川 健之(大阪北RC)
- ◆クラブテーマ 「こっから、おもしろくなるよ!」

創立 2000年11月2日
例会日 木曜日 18:30-19:30
例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
事務局 守口市河原町10-5
ホテル・アゴーラ大阪守口5F
TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441
会長 水谷 武志
幹事 元古 隆司
会報担当 クラブ運営委員会
E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
http://www.7b.biglobe.ne.jp/~
m-eveningrc/

本日例会 2025年9月 4日(木) 第1010回

担当：国際奉仕委員会

卓話：「私の生け花流派
『山村御流』のはなし」
小林 澄子 会員

前回例会 2025年8月28日(木) 第1009回

1. 開 会 会 長
 2. ロータリーソング「我等の生業」
 3. ニコニコ箱紹介(小計3,000円 累計62,000円)
藤井俊章会員 本日よろしくお願ひします。
 4. 委員会報告
①8/25(月)インタラクティブ合同会議出席報告
福田 I A 担当会員
②8/30(土)親睦家族食卓会開催案内
中道クラブ運営委員長
 5. 幹事報告
①回覧：三クラブ合同コンペ参加申込回覧
②9/4(木)通常例会開催連絡
例会前18:00より定例理事会を開
催しますので、役員・理事の皆様
はご出席ください。
 6. 出席報告(会員総数15名)
8月28日 出席10名 欠席5名 出席率66.67%
メイクアップ報告
7月22日 出席 9名 欠席6名 出席率60.00%
(メイクアップ報告なし)
 7. 会長の時間
 8. 本日のプログラム
担 当：社会奉仕委員会
卓 話：「葬儀での避けたい言葉や行為」
卓話者：藤井 俊章会員
 9. 閉 会 会 長
- 親睦食卓会 アゴーラ1階「ザ・ループ」

◆クラブ運営委員会事業報告

「親睦家族食卓会の開催」

※国防会サマーフェスタへの参加
開催日：2025年8月30日(土)
会 場：大起水産「まぐろスタジアム」
時 間：集合11:30
開催11:50~14:00
参加者：総数13名(会員6名、ご家族5名)
米山奨学生1名、事務局1名)
福田会員、小林会員(ご家族1
名)、水谷(ご家族3名)、長野
(ご家族1名)、中道、柳本、
宋ハヌルさん、事務局石山



次回例会 2025年9月11日(木) 第1011回

クラブ親睦例会(ノーマイカー例会)

卓話担当：クラブ運営委員会

○親睦食卓会場「やすべえ」

※例会終了後に会場へ移動します

9月の例会休会日

9月18日(木) 細則休会

9月25日(木) 細則休会



卓 話

「葬儀での避けたい言葉や行為」

藤井 俊章 会員

葬儀を営むに際して、浄土真宗では教義上ふさわしくない言葉や行為が多くあります。これらはすべて、迷信や俗信です。阿弥陀如来の「おすくい」によって臨終と同時に往生成仏させていただく往生即成仏＞私たちは、それらを気にしたり、頼ったりしなくても、今を精一杯生かさせていただくことができます。何例か掲載いたしますのでご参考にして下さい。

《御霊前》

世間では「霊」とは迷っているものとみられています。しかし、浄土真宗では往生即成仏といわれますように臨終後迷う必要がありません。故人の死をご縁として、私が、ご本尊の前で仏法を聞かせていただくのですから「御仏前」というのが正式です。

《冥福を祈る》

残されたものが故人の来世の幸福を祈るという意味です。「お念仏」を喜ばせていただく私たちは、臨終後ただちに往生させていただくので、冥福を祈る必要はありません。浄土真宗では、故人の死に対して、悼みや悲しみを表すときは「哀悼の意を表する」といいます。

《草葉のかげ》

墓場の周りのことで、故人が成仏できずに迷っている場所をあらわしています。

《黄泉の国へ旅立つ》

「黄泉の国」とは『古事記』に書かれており、神道があらわしている死後の穢れの世界のことです。お浄土へ生まれさせていただく私たちは、穢れの世界などには旅立ちません。

《戒名》

「戒（戒律）」とは出家者が守るべき規則のことであり、「戒名」とはその「戒」を授かった人の付ける名前です。浄土真宗では「戒」を守れない私が阿弥陀如来のはたらきによってすくわれていくことを聞かさせていただく身になった人が「法名」をいただき、お釈迦さまの弟子に加わるので「釋○○」となります。

《死装束》

「死装束」とは、故人に経帷子を着せ、頭

に三角巾を付け、お金（六文銭）をもたせ、手甲脚絆、草鞋杖を添えたものをいいます。これは、故人が臨終後、行く場所迷いをさまよう「死出の旅」の服装と考えられたもので、浄土真宗ではすべて不要のものです。女性は薄化粧、男性はヒゲを剃る程度で結構です。

《守り刀》

「死出の旅」の途中、魔物に襲われたときの魔除け刀のことですから、当然必要ありません。

《清め塩》

故人の死を穢れとする行為です。浄土真宗では「死」を穢れとは一切しませんし、そのようなことをするのは故人に対して失礼ではないでしょうか？

《一膳めし・茶碗を割る》

故人が使用していた茶碗に、故人の霊（生霊・死霊）がのり移り、たてこもるとの迷信から、その茶碗に飯を盛りその上に一本だけ箸をさす「一膳めし」をしたり、割ったりすることによって霊が再び立ち返り、わざわいを及ぼさないようにというまじないの行為です。

《ワラを燃やす》

昔の日本の家はワラぶき屋根であったことから、ワラを燃やすことによって故人の霊に帰る家がなくなったことをわからせるという迷信です。

《棺を回す》

棺を回すことによって、故人の霊が目を回して方向感覚を失い、帰ってこないようにする迷信です。

《枕団子・満中陰餅（四十九日餅）

古代インドの哲学書『ウパニシャッド』に書かれている「ピンダ（供養餅）」の習俗がとりいれられたものといわれています。「ピンダ」とは故人を祖先位に到達させようとする祭りですので、浄土真宗では一切関係ありません。

《ご詠歌》

西国霊場巡拝の和讃や、和歌を一首奉詠し、加えて、地蔵和讃をあげるものですので、浄土真宗では用いません。

（大阪教区教務所『葬儀のしおり』より抜粋）